

地図講演会「アジア太平洋地域の近代化
と日本軍の地図作製」

大阪大学大学院文学科教授 小林 茂先生

地図講演会

6月25日（土）に、旧日本軍によって第二次世界大戦終結までに作製されたアジア太平洋地域の地図「外邦図」研究の第一人者の小林茂大阪大学大学院教授が「アジア太平洋地域の近代化と日本軍の地図作製—数奇な運命をたどった外邦図の調査から—」と題して講演されました。

ほとんどの外邦図は、旧日本軍が測量、または外国製の地図を一部改変したりして作製した軍事秘密の地図です。

小林教授によると、外邦図は日清戦争ごろから需要が高まり朝鮮半島・台湾・中国などの地域が作製されました。この外邦図は秘密図であったため終戦直後に焼却されましたが、焼却を免れて数奇な運命をたどった一部が、国立国会図書館、大学などの研究機関、岐阜県図書館世界分布図センターなどに保存されています。

今後、外邦図は中国、韓国などの各国研究者との共同研究、歴史的資料としての活用、植生の変化・地形の変化・海岸の変化など地球観測データとしての活用もできると研究の重要性を説明されました。

また、岐阜県図書館には、およそ14,000点が所蔵されていて、閲覧も容易にできるのは素晴らしいことと話されました。



小林茂先生（地図講演会）

「楽しかったよ！地図づくり」

— わくわく地図教室 —

7月21日、22日に、地図研究家の渡辺一夫先生を講師にお招きし、「わくわく地図教室」を開催しました。

21日の低学年の部では、方角の学習をした後、オリジナル地図記号を作ったり、簡単な地図をかいたりする中で、楽しみながら地図づくりの基本を学んでいきました。

また、22日の高学年・中学生の部では、伊能忠敬のように、歩測で地図をつくる活動を行いました。方位磁石を手にし、自分の進む方向を確かめながら図書館内を歩き、地図化していきました。



「ぼくは、自分勉強で地図を作るけど、いろいろこつを聞けたし、質問したりしてためになったし、PCで地図が作れてすごく楽しかった。来年もぜひ、参加したいです。」「今日覚えたことをもとに金華山の地図をつくりたい。」「ちょっと難しかったこともあったけど、すごくでかい地図が描けて、友達に案内をする時にためになったと思うので、今度は、他の道からの道のりとかを描きたいです。東西南北も分かったので、また、使ってみたいと思います。来年も参加して、また、楽しい地図教室ができるととってもうれしいです。」などの感想も寄せられました。

小学校1年生から中学1年生という、幅広い年齢の子どもたちが参加しましたが、どの子も熱心に活動し、新しいことを知る楽しさ、できることが増える喜びを味わい、地図が大好きになったようです。